

## 1. HTML とスタイルシート

HTML は文章の構造を定義することを目的に作られましたが、インターネットの普及とともにデザイン面での要求が高まり、ブラウザベンダーが独自に FONT、CENTER タグなど構造とは無関係なタグを乱立させました。しかし、HTML はそもそもが構造定義のためのものなので、デメリットばかりで十分なニーズには応えられませんでした。そこで構造と見栄えを切り離し、文章中の見栄えだけに特化すべく作られたのがスタイルシートです。

## 2. プロパティと値

### プロパティ：値

color:red

スタイルシートでは●を△するという形式で指定が行えます。このときの●を**プロパティ**、△を**値**と呼び間を**コロソ**（:）で結びます。

#### よく使われるプロパティ

- |         |                  |               |
|---------|------------------|---------------|
| ● 文字色   | color:色          | カラーネーム、#RGB   |
| ● 文字サイズ | font-size:文字サイズ  | ピクセル、pt 等     |
| ● 行間    | line-height:行の高さ | 絶対値または相対値 (%) |
| ● 背景色   | background-color | カラーネーム、#RGB   |

## 3. 記述上の注意

- 大文字小文字は区別される
- 途中で改行すると効かなくなる場合もあるので改行位置はそのまま
- 複数のプロパティは;で区切る

## 4. HTML への埋め込み(インラインスタイルシート)

HTML とスタイルシートは表記法が異なるので、HTML のないうまくとけ込ませる必要があります。

そのための最も簡単な方法が、HTML タグの STYLE プロパティの値として埋め込む方法です。この埋め込み方を**インラインスタイルシート**と呼びます。

<タグ style="プロパティ：値">

<P style="color:red">

inline.html

```
<html><head>
<title> インラインスタイルシート</title></head>
<body>
<P style="color:#ff0000;font-size:20px">
おはようございます</P>
こんにちは<br>
<P> さようなら</P>
<P> またあした</P>
</body></html>
```

### 複数のプロパティの指定

指定の終わりに ; (セミコロン)を入れる

## 5. スタイルシートの基本書式

タグ内への記述では指定が同じであっても出現する度に繰り返す必要があり、あまり効率的とはいえません。そこでタグ内から独立した別のところに記述する方法が一般的にとられます。別の場所で指定しているので何に対しての指定かを明示する必要があり、適応先を示すが**セレクタ**です。セレクタで指定をすればページ内の同じセレクタを持つものを一括定義・修正することができます。

### セレクタ {プロパティ：値}

p {color:red;}

- **セレクタ**  
そのスタイルを適応させる対象
- **プロパティ**  
セレクタの何に対して設定を行うか
- **値**  
プロパティに対しての値

## 6. タグの再定義

セレクタに HTML のタグを用いることで HTML タグに対しての見栄えをブラウザ依存ではなく自分で再定義することが可能となります。

## 7. 定義場所

タグを再定義するためにはそのタグが出現するより先に定義しておく必要があります。最も確実なのはすべてのタグが出現する<body>部分より前の<head>内で定義を行うことです。

### Style タグ

スタイルシートを定義するにもそこが HTML である限り、なんらかの構造定義のタグのなかにおいてやる必要があります。そこで<Style>~</Style>のなかにスタイルシートの定義を記述します。

### コメントタグ

タグを用いても<Style>タグが理解できない古いブラウザなどでは理解されないタグは無視されるため中身が表示されてしまったりという不都合がおきることになります。そこで、<Style>タグ内に HTML の**コメントタグ**<!--~-->でくくり、その中に記述することでこうしたことを防ぎます。

```
<style>
<!--
セレクトタ(プロパティ:値)
→
</style>
```

saiteigi.html

```
<html>
<head>
<title> タグの再定義</title>
<style type="text/css">
<!--
p{
color:blue;
font-size:36px;
}
-->
</style>
</head>
<body>
以下略
```

## 8. 外部スタイルシート

<head>内にスタイルシートの定義を行っても、その影響が及ぼされるのは定義したページ内だけです。複数ページにわたって同じ指定を行いたい場合、各ページ毎に指定を行ったり修正を行うのは大変です。

そこで、スタイルシートの定義を外部の別ファイルで行い、HTML からそのスタイルシートファイルへリンクを貼ることで、リンクしているページへの定義を一括で行える**外部スタイルシート**という方法がよく利用されます。この方法を外部スタイルシートと呼びます。

この方法を用いれば数百ページの指定・修正を 1 ページの記述で一気に変更することができます。

ただし、指定の間違いやスタイルシートファイルの異常などもすべてのページに影響を及ぼすのでこのファイルの管理は慎重に行う必要があります。

### 外部スタイルシートファイル

外部スタイルシートファイルは**拡張子.css**を用います。

HTML ではないので<style>タグやコメントタグは必要ありません。

### リンクタグ

外部スタイルシートファイルにリンクを貼るには<head>部に<link>**タグ**を用います。

```
<link rel="stylesheet" href="スタイルシートファイルへのパス" type="text/css">
```

test.css

```
h1 {
font-size: 36px;
color: #009966
}
body {
font-size: 9px;
line-height: 14px;
color: #00CCCC
}
```

link1.html

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE> 外部スタイルシート</TITLE>
<link rel="stylesheet" href="test.css"
type="text/css">
</HEAD>
<BODY bgcolor="#FFFFFF">
<h1> 外部スタイルシート</h1>
<p> 外部スタイルシートを使えばスタイルの定義を1
回の指定
でまとめてでき、<BR>
多数のファイルの修正も外部定義ファイルを1
回
修正するだけ
です。 </P>
</BODY>
</HTML>
```

link2.html

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>2 ページ目</TITLE>
<link rel="stylesheet" href="test.css"
type="text/css">
</HEAD>
<BODY bgcolor="#FFFFFF">
この書類に対してもスタイルを同時に適応させる
ことができます。
</BODY>
</HTML>
```